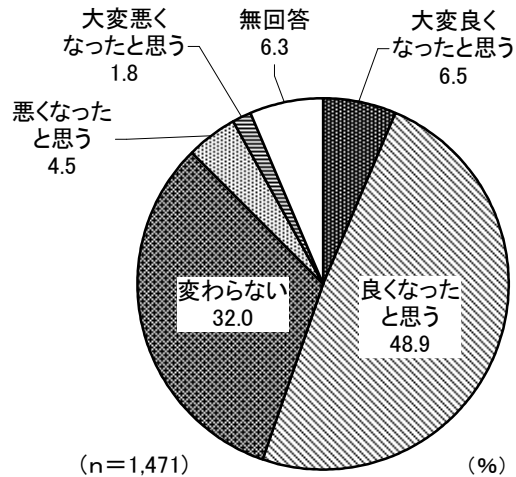


9 交通・安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (A:問17)

問. 本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください)

図9-1-1 本厚木駅周辺の治安



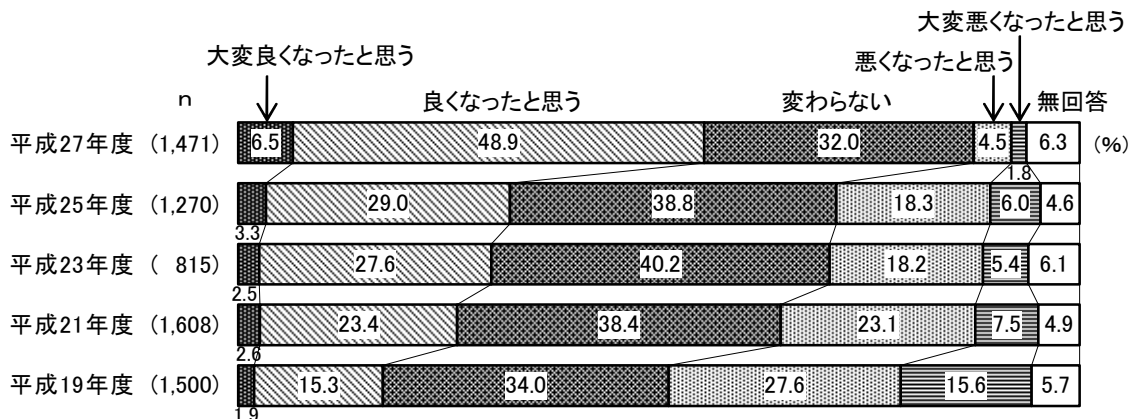
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「良くなったと思う」(48.9%)が5割近くで、これに「大変良くなったと思う」(6.5%)を合わせた『改善したと思う方』(55.4%)は5割半ばとなっている。一方、「悪くなったと思う」(4.5%)と「大変悪くなったと思う」(1.8%)を合わせた『悪化したと思う方』(6.3%)は1割未満となっている。また、「変わらない」(32.0%)は3割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『改善したと思う方』(55.4%)は前回調査(32.3%)より23.1ポイント増加している。一方、『悪化したと思う方』(6.3%)は前回調査(24.3%)より18.0ポイント減少している。

図9-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化

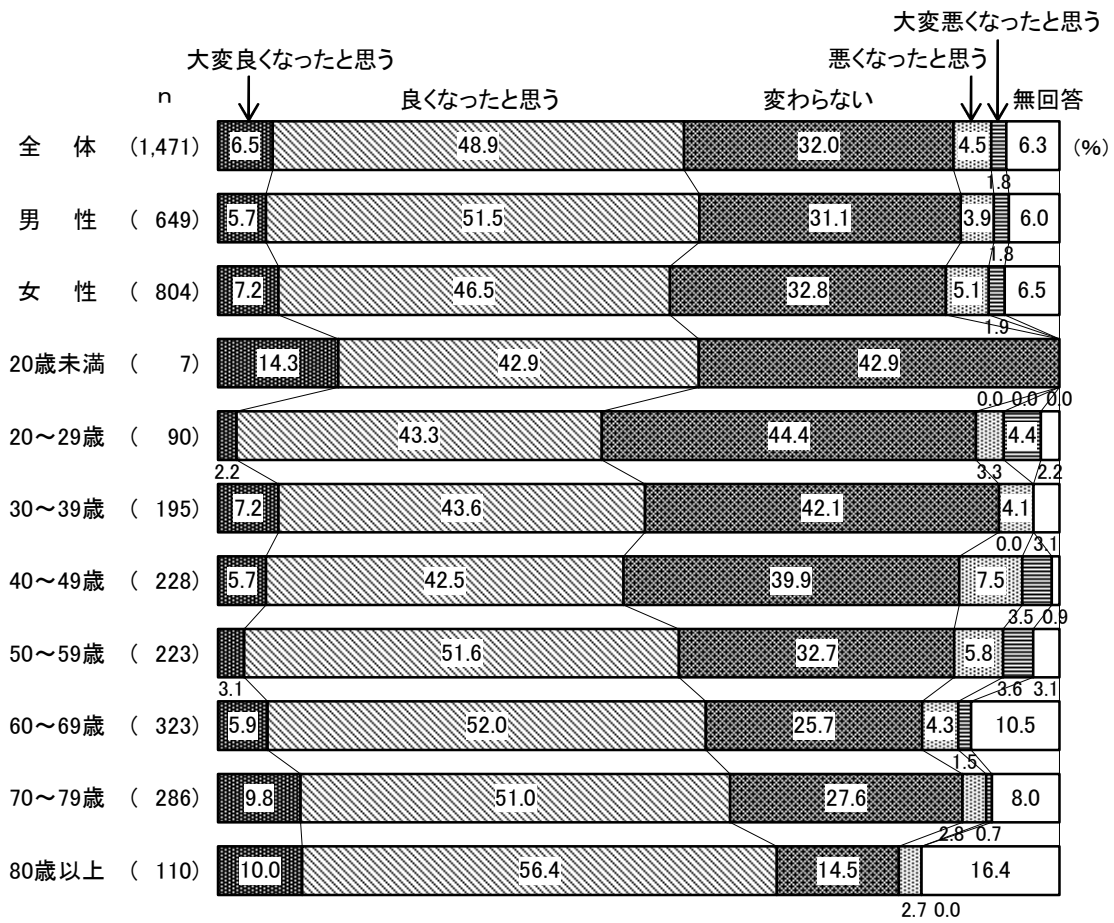


【属性別】

性別で見ると、男性では『改善したと思う方』（57.2%）が女性（53.7%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では『改善したと思う方』（66.4%）が7割近くと高くなっている。20～29歳では「変わらない」（44.4%）が4割半ばと高くなっている。40～49歳では『悪化したと思う方』（11.0%）が1割を超えて高くなっている。

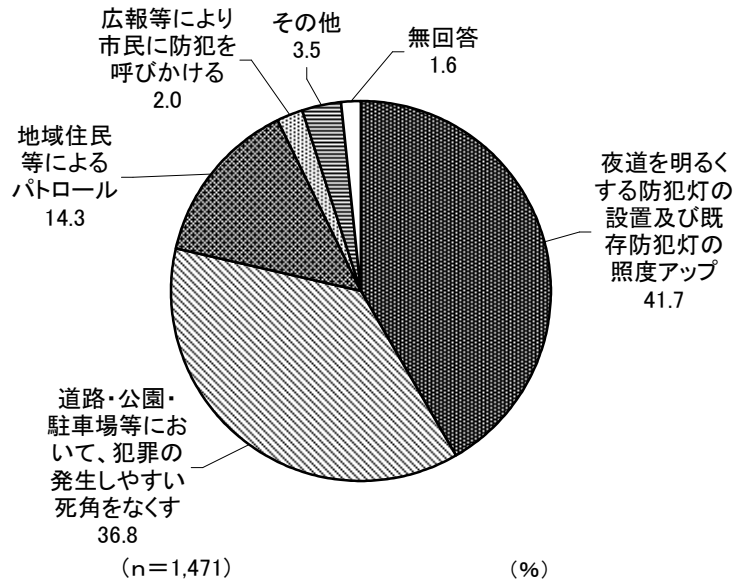
図9-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別



(2) 防犯対策に効果的なもの (A: 問18)

問. 防犯対策について、どの取組が効果的だと思いますか。(1つだけ選んでください)

図9-2-1 防犯対策に効果的なもの



【全体】

防犯対策に効果的な取組について聞いたところ、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(41.7%)が4割を超えて最も高く、次いで「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(36.8%)、「地域住民等によるパトロール」(14.3%)となっている。

【経年変化】

平成27年度調査では、質問が過去と異なっているため、参考に記載する。

表9-2-1 防犯対策に効果的なもの—経年変化

調査年	n	夜道の照明をアップし既存防犯灯の照度を明るくする	道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	地域住民等によるパトロール	広報等により市民に呼びかける	その他	無回答
平成27年度	1,471	41.7	36.8	14.3	2.0	3.5	1.6
平成25年度	1,270	41.9	39.1	10.9	2.0	3.8	2.3
平成23年度	815	70.7	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
平成21年度	1,608	72.7	76.2	39.6	21.0	5.8	2.2
平成19年度	1,500	67.1	77.3	40.3	22.3	9.1	2.5

(%)

(注1) 平成25年度調査までは、「防犯対策に望むもの」としていた。

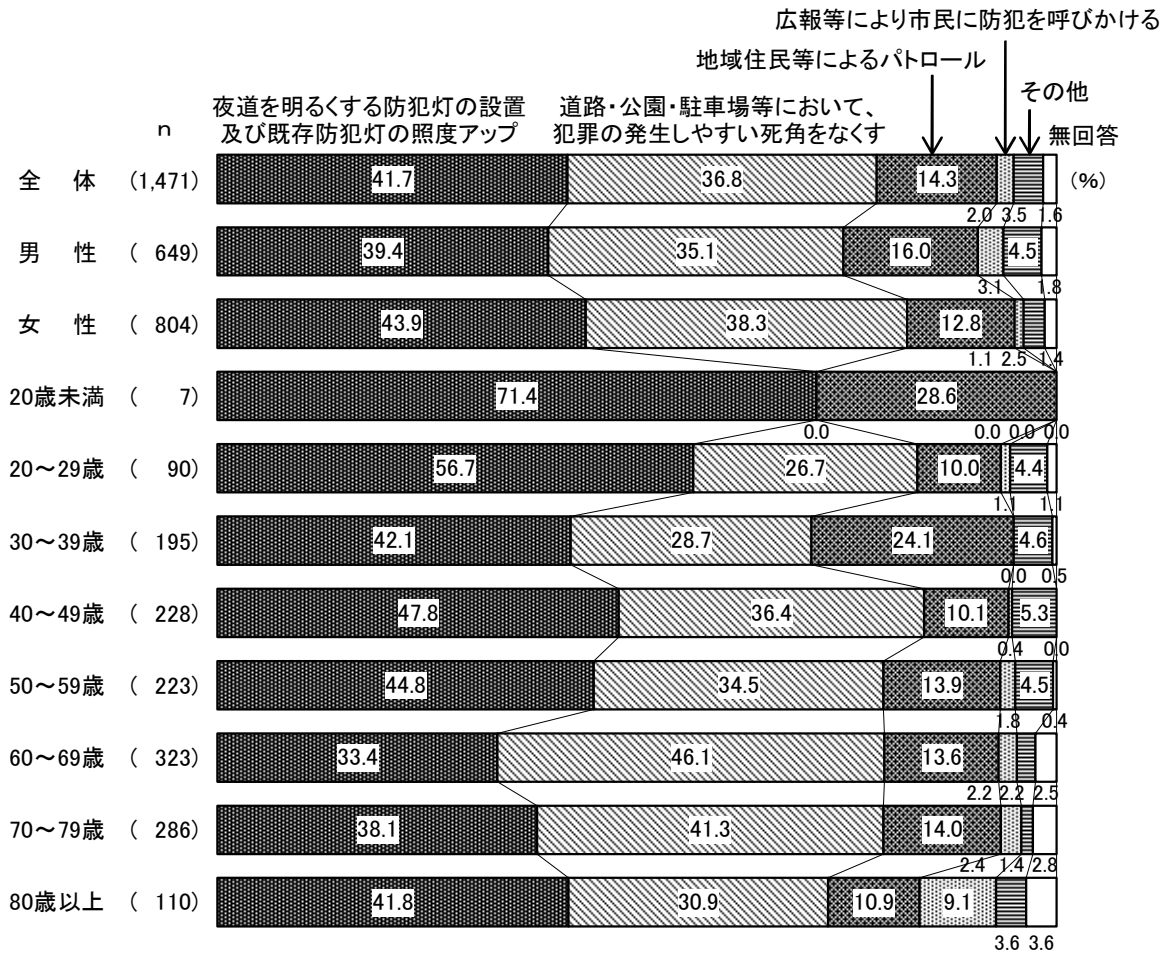
(注2) 平成25年度調査以降は単数回答、平成23年度調査までは複数回答で聴いていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(43.9%)が男性(39.4%)より4.5ポイント、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(38.3%)が男性(35.1%)より3.2ポイント高くなっている。一方、男性では「地域住民等によるパトロール」(16.0%)が女性(12.8%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(56.7%)が6割近くと高くなっている。60～69歳では「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(46.1%)が5割近くと高くなっている。30～39歳では「地域住民等によるパトロール」(24.1%)が2割半ばと高くなっている。

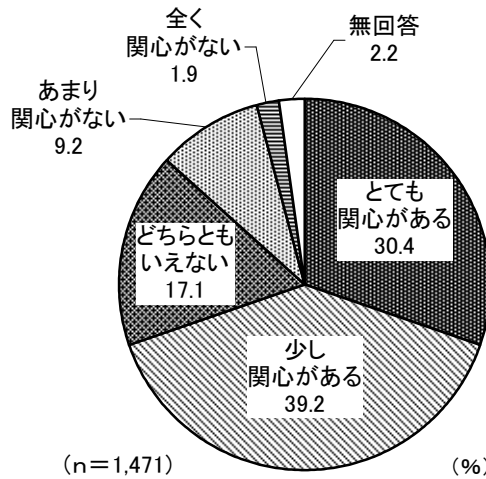
図9-2-2 防犯対策に効果的なもの一性別、年齢別



(3) セーフコミュニティの考え方 (A:問19)

問. 厚木市は、平成22年11月19日にWHOが推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。(1つだけ選んでください)

図9-3-1 セーフコミュニティの考え方



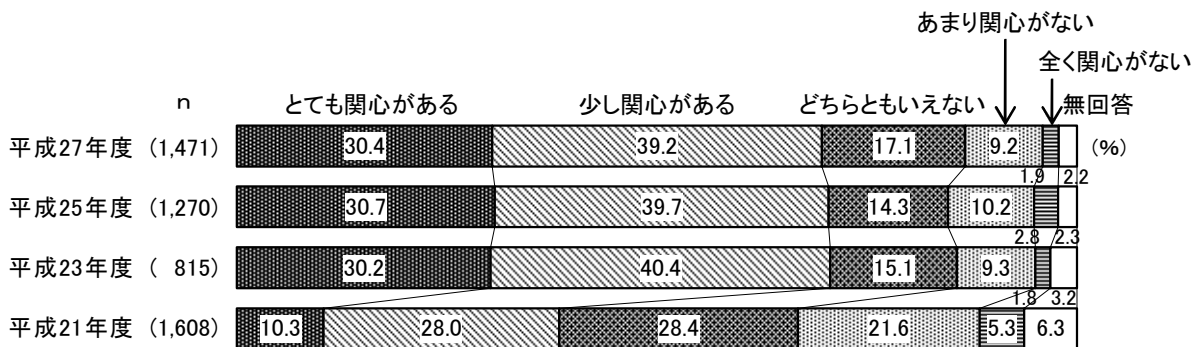
【全体】

セーフコミュニティの考え方について関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」(30.4%)と「少し関心がある」(39.2%)を合わせた『関心がある』(69.6%)は約7割となっている。一方、「あまり関心がない」(9.2%)と「全く関心がない」(1.9%)を合わせた『関心がない』(11.1%)は1割程度となっている。また、「どちらともいえない」(17.1%)は2割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、平成23年度調査以降、大きな差異はみられない。

図9-3-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化

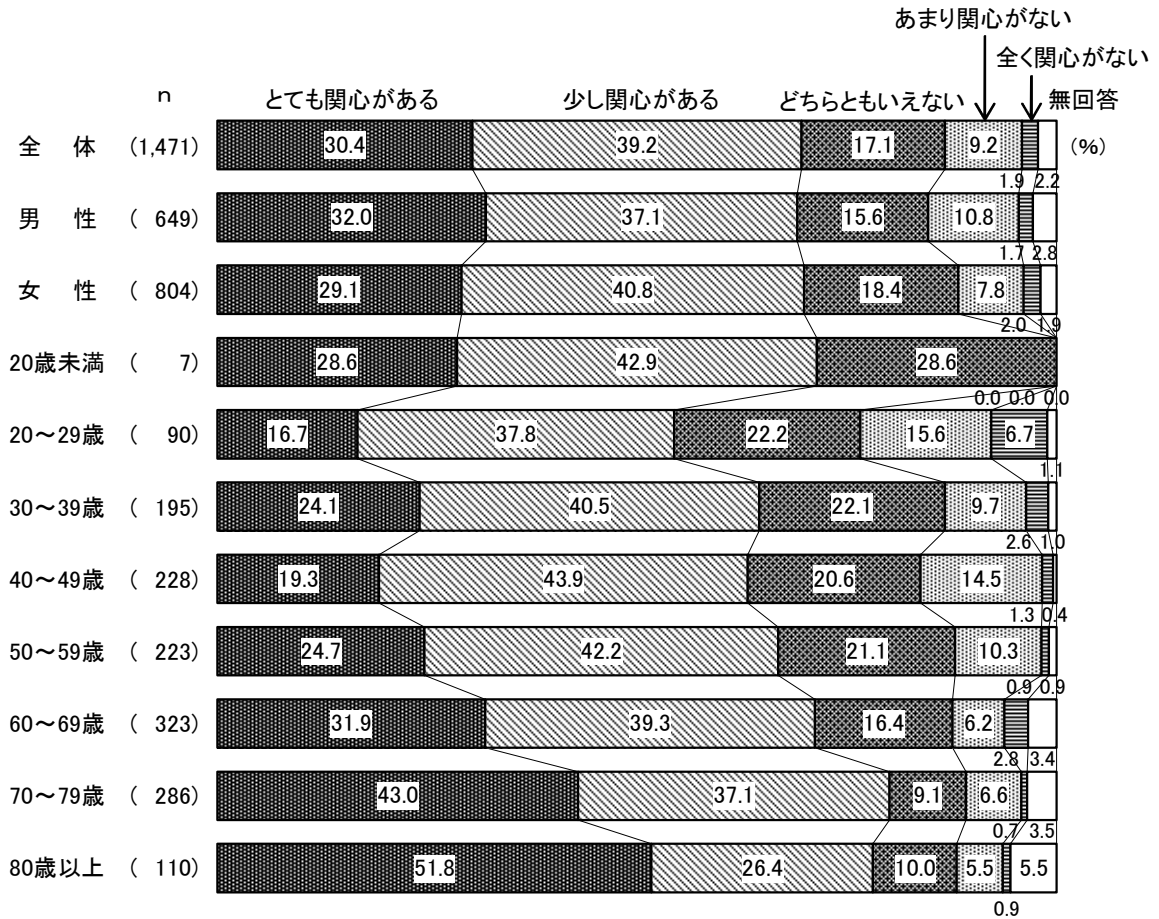


【属性別】

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、70～79歳では『関心がある』(80.1%)が約8割と高くなっている。20～29歳では『関心がない』(22.3%)が2割を超えて高くなっている。

図9-3-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別

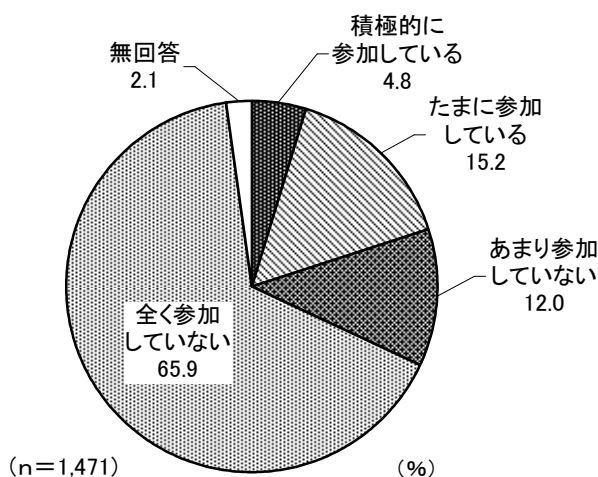


(4) 地域の防犯活動 (A: 問20)

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加していますか。

(1つだけ選んでください)

図9-4-1 地域の防犯活動



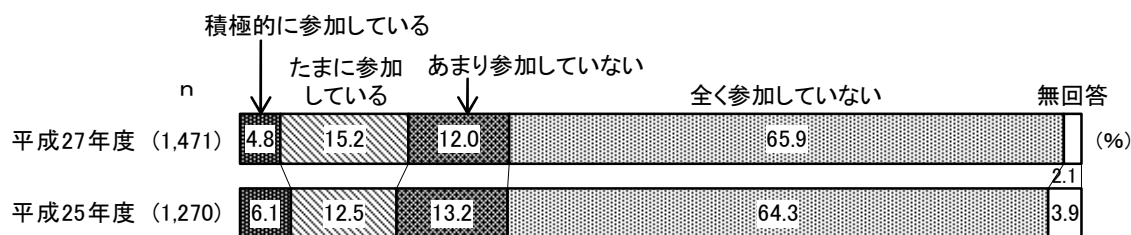
【全体】

地域の防犯活動に参加しているか聞いたところ、「積極的に参加している」(4.8%)、「たまに参加している」(15.2%)、「あまり参加していない」(12.0%)の3つを合わせた『参加』(32.0%)は3割を超えている。一方、「全く参加していない」(65.9%)は6割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、大きな差異はみられない。

図9-4-2 地域の防犯活動—経年変化

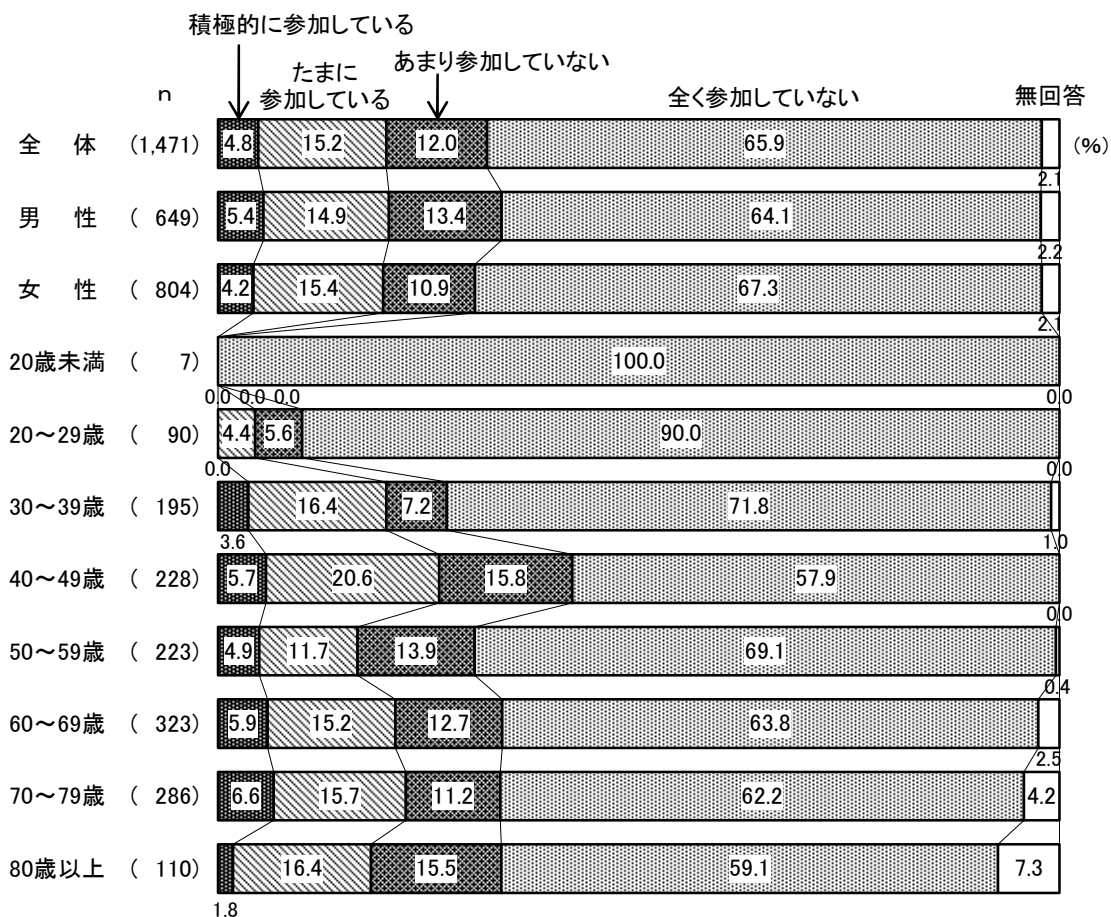


【属性別】

性別で見ると、男性では『参加』（33.7%）が女性（30.5%）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では『参加』（42.1%）が4割を超えて高くなっている。20～29歳では「全く参加していない」（90.0%）が9割と高くなっている。

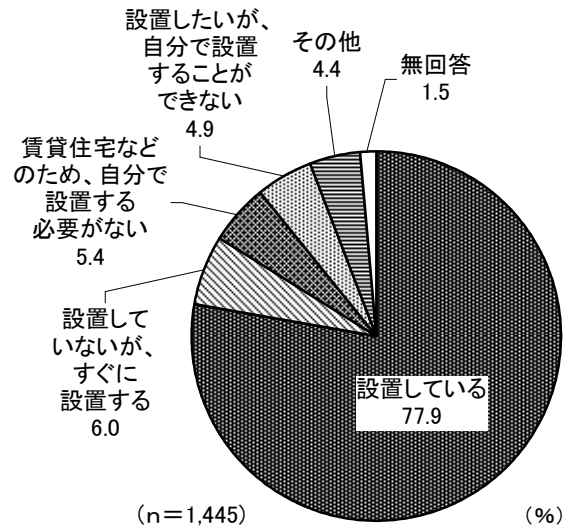
図9-4-3 地域の防犯活動—性別、年齢別



(5) 住宅用火災警報器の設置 (B:問14)

問. 平成23年に全ての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられましたが、あなたの家には設置されていますか。(1つだけ選んでください)

図9-5-1 住宅用火災警報器の設置



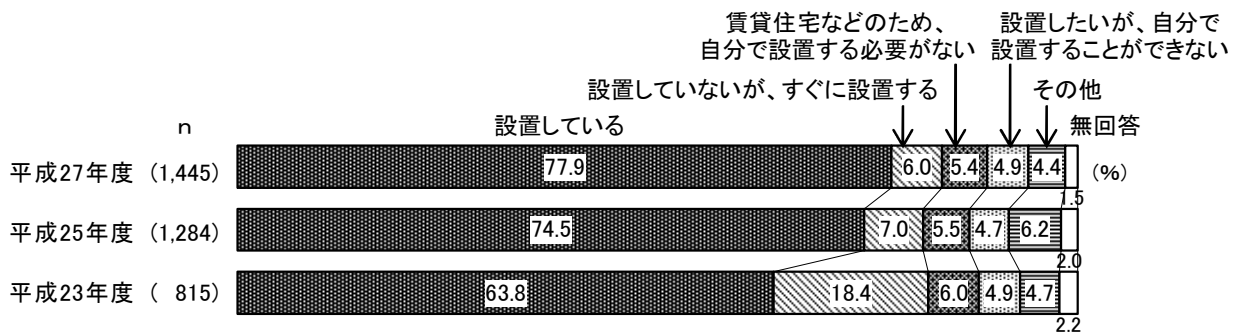
【全体】

住宅用火災警報器の設置について聞いたところ、「設置している」(77.9%)は8割近くと高くなっている。「設置していないが、すぐに設置する」(6.0%)、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(5.4%)、「設置したいが、自分で設置することができない」(4.9%)はいずれも1割未満となっている。

【経年変化】

平成27年度調査では、質問が過去と異なっているため、参考に記載する。

図9-5-2 住宅用火災警報器の設置—経年変化



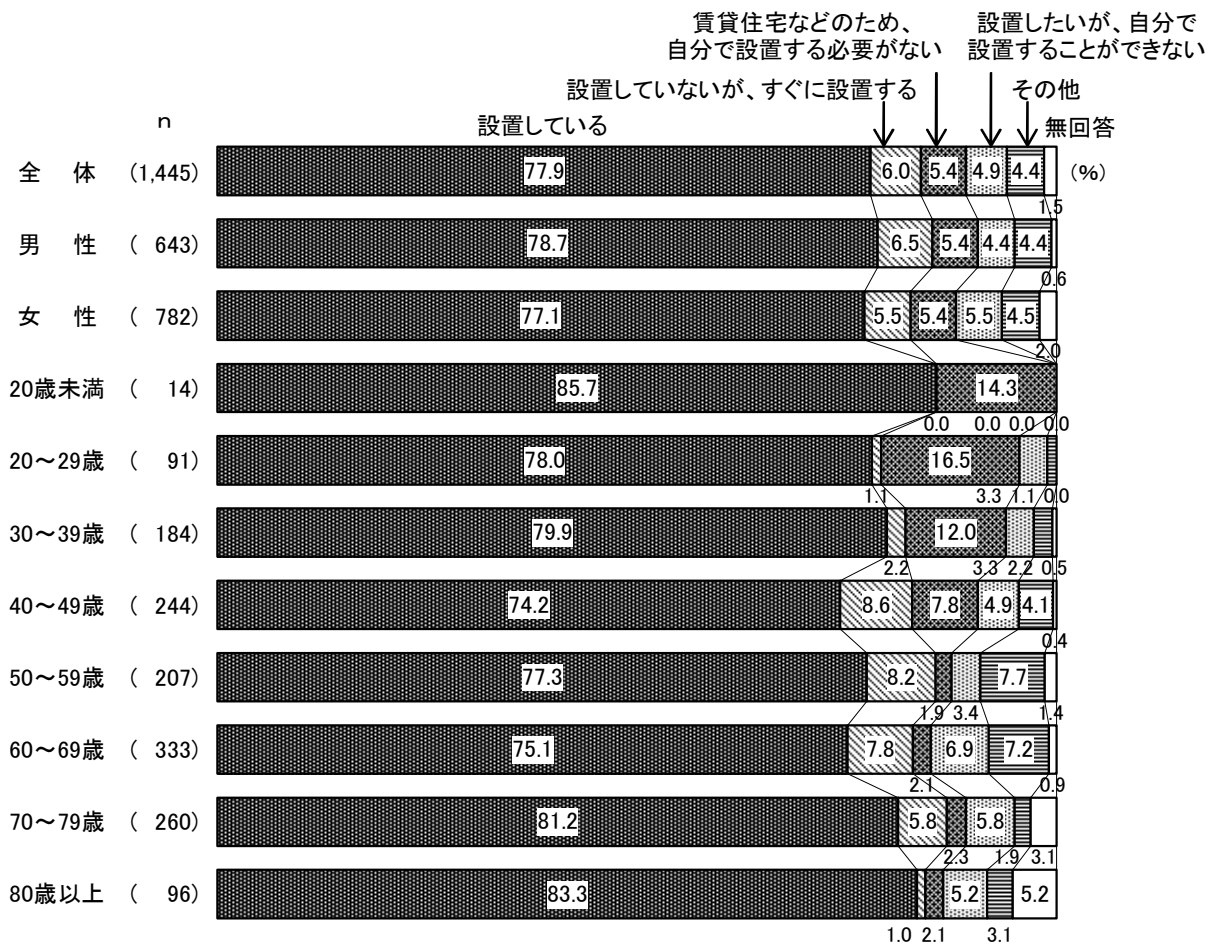
(注) 平成25年度調査までは、「住宅用火災報知器を寝室・階段に設置しているか」としていた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、70歳以上では「設置している」が8割を超えて高くなっている。20～29歳では「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(16.5%)が2割近くと高くなっている。

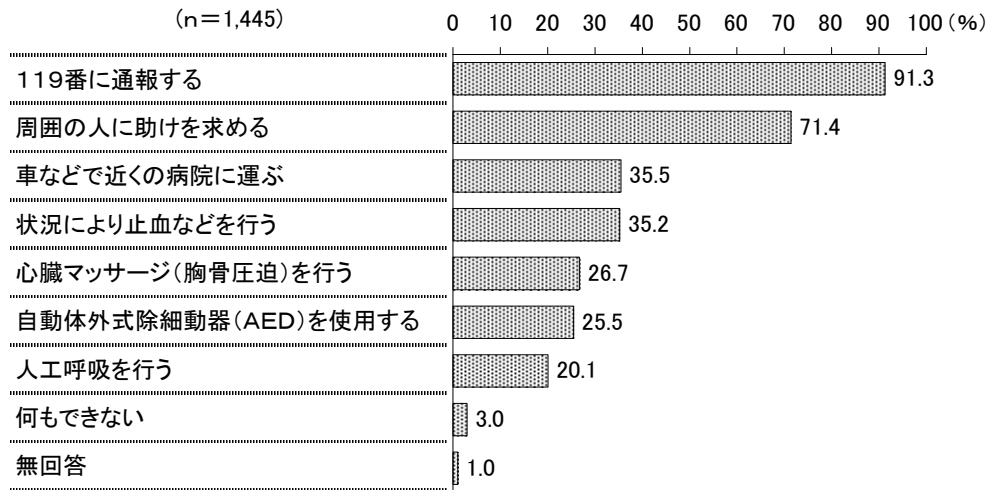
図9-5-3 住宅用火災警報器の設置—性別、年齢別



(6) 実行可能な応急手当 (B:問15)

問. 救急車が到着するまでの間の応急手当は、傷病者の生存率を高めるためにとても重要であり、そのための知識も必要とされています。あなたは次の応急手当のうち、いざというときに実行できるものはどれですか。(いくつでも選んでください)

図9-6-1 実行可能な応急手当



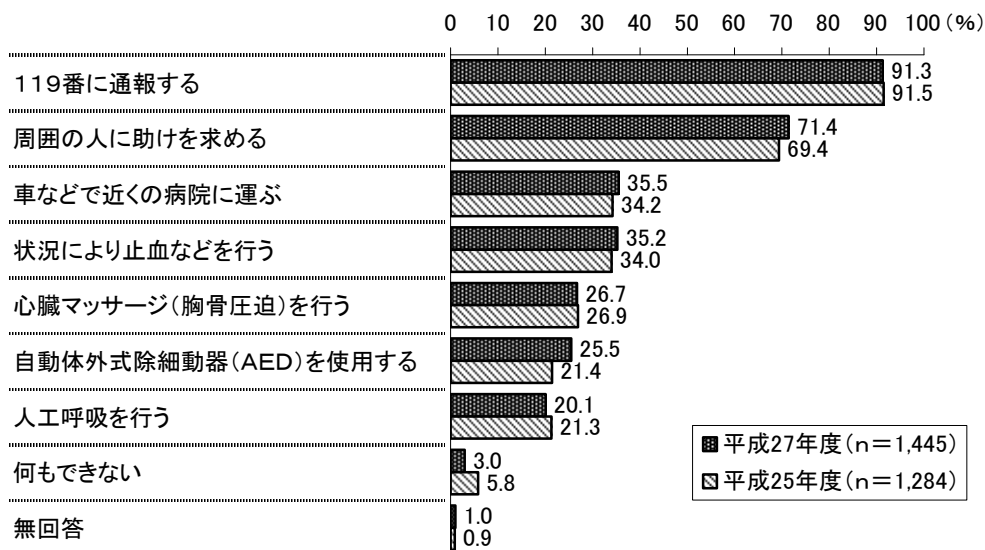
【全体】

いざというときに実行できる応急手当について聞いたところ、「119番に通報する」(91.3%)が9割を超えて最も高く、次いで「周囲の人に助けを求める」(71.4%)、「車などで近くの病院に運ぶ」(35.5%)、「状況により止血などを行う」(35.2%)、「心臓マッサージ(胸骨圧迫)を行う」(26.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自動体外式除細動器(AED)を使用する」(25.5%)は前回調査(21.4%)より4.1ポイント増加している。

図9-6-2 実行可能な応急手当—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「車などで近くの病院に運ぶ」（43.4％）が女性（29.4％）より14.0ポイント、「人工呼吸を行う」（26.1％）が女性（15.2％）より10.9ポイント、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」（31.4％）が女性（22.9％）より8.5ポイント、「状況により止血などを行う」（39.8％）が女性（31.5％）より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性では「周囲の人に助けを求める」（74.8％）が男性（67.8％）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳から39歳では「周囲の人に助けを求める」が8割を超えて高くなっているほか、「状況により止血などを行う」（42.9％）、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」（41.8％）、「自動体外式除細動器（AED）を使用する」（44.0％）、「人工呼吸を行う」（33.0％）が他の年代に比べて高くなっている。30～39歳では「周囲の人に助けを求める」（83.2％）が8割を超えて高く、「車などで近くの病院に運ぶ」（45.7％）が4割半ばと高くなっている。

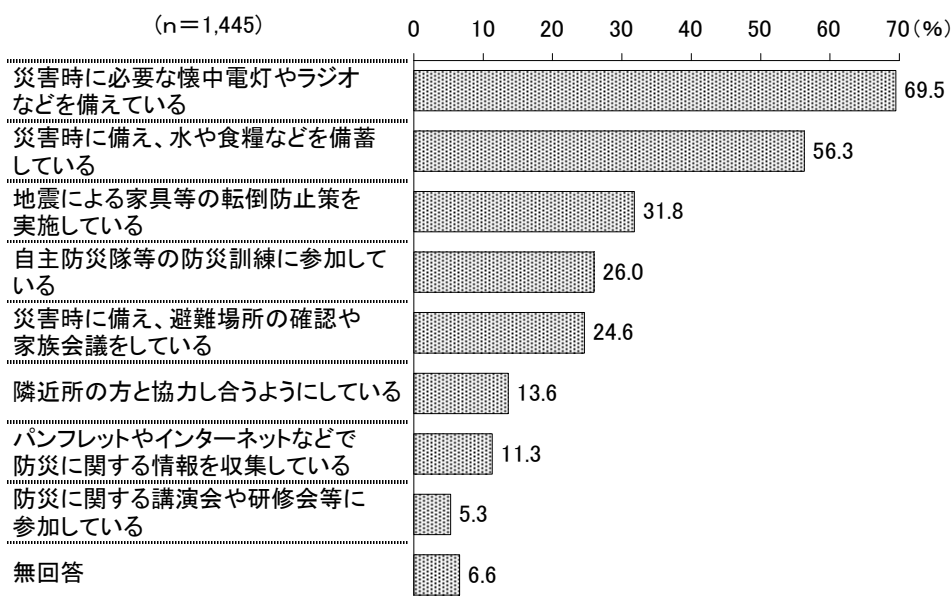
表9-6-1 実行可能な応急手当—性別、年齢別

			(%)								
		n	119番に通報する	周囲の人に助けを求める	車などで近くの病院に運ぶ	状況により止血などを行う	心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う	自動体外式除細動器（AED）を使用する	人工呼吸を行う	何もしない	無回答
全 体		1,445	91.3	71.4	35.5	35.2	26.7	25.5	20.1	3.0	1.0
性別	男 性	643	91.0	67.8	43.4	39.8	31.4	28.6	26.1	2.3	0.5
	女 性	782	91.8	74.8	29.4	31.5	22.9	22.9	15.2	3.5	1.2
年 齢 別	20歳未満	14	100.0	78.6	21.4	57.1	71.4	57.1	64.3	-	-
	20～29歳	91	95.6	82.4	29.7	42.9	41.8	44.0	33.0	1.1	-
	30～39歳	184	97.3	83.2	45.7	37.5	32.6	37.0	27.7	-	0.5
	40～49歳	244	94.7	77.9	39.8	39.3	32.8	34.8	22.1	1.6	0.4
	50～59歳	207	93.7	71.0	40.6	40.6	29.0	30.0	20.3	1.0	1.0
	60～69歳	333	90.7	69.4	37.8	33.9	26.1	21.9	17.4	2.1	0.6
	70～79歳	260	87.7	63.8	26.5	30.0	13.5	9.6	12.7	5.4	1.2
	80歳以上	96	72.9	51.0	19.8	17.7	11.5	2.1	10.4	15.6	4.2

(7) 家庭で行っている災害対策 (B:問16)

問. 厚木市では、大規模地震災害等に備え地域防災計画の見直しをしています。あなたの家庭ではどのような災害対策をしていますか。(いくつでも選んでください)

図9-7-1 家庭で行っている災害対策



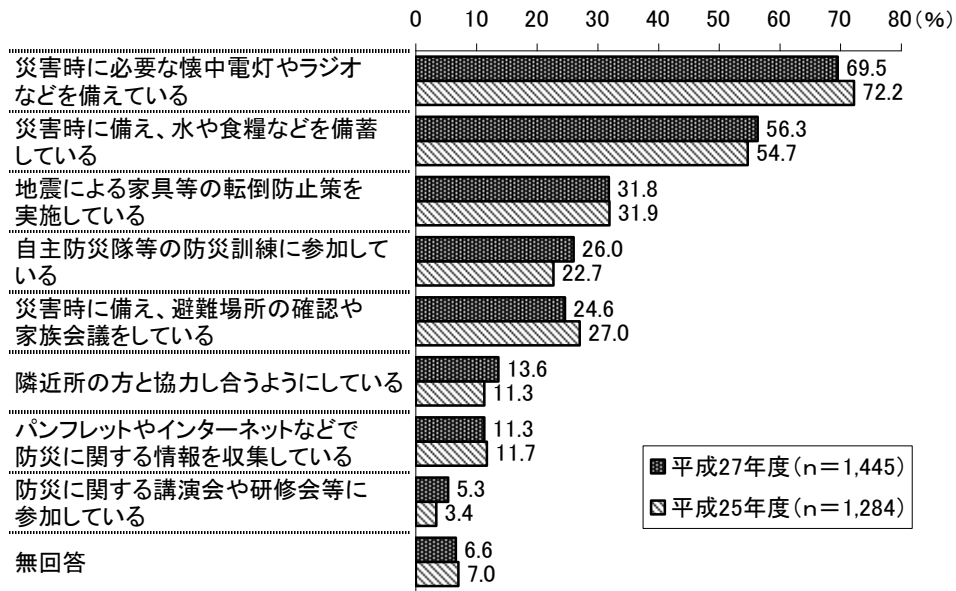
【全体】

家庭で行っている災害対策について聞いたところ、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている」(69.5%)が約7割で最も高く、次いで「災害時に備え、水や食糧などを備蓄している」(56.3%)、「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(31.8%)、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(26.0%)、「災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている」(24.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(26.0%)は前回調査(22.7%)より3.3ポイント増加している。

図9-7-2 家庭で行っている災害対策—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(30.0%)が女性(22.4%)より7.6ポイント、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている」(71.4%)が女性(68.0%)より3.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70～79歳では「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている」(81.5%)が8割を超えて高く、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(38.8%)が4割近くと高くなっている。60～69歳では「災害時に備え、水や食糧などを備蓄している」(61.3%)が6割を超えて高くなっている。80歳以上では「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(42.7%)が4割を超えて高く、「隣近所の方と協力し合うようにしている」(31.3%)が3割を超えて高くなっている。

表9-7-1 家庭で行っている災害対策—性別、年齢別

		n	災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている	災害時に備え、水や食糧などを備蓄している	地震による家具等の転倒防止策を実施している	自主防災隊等の防災訓練に参加している	災害時に備え、避難場所の確認や家族会議を避ける	隣近所の方と協力し合うようにしている	パンフレットやインターネットで防災に関する情報を収集している	防災に関する講演会や研修会等に参加している	無回答
全体		1,445	69.5	56.3	31.8	26.0	24.6	13.6	11.3	5.3	6.6
性別	男性	643	71.4	55.8	33.1	30.0	24.1	14.2	10.6	6.7	6.4
	女性	782	68.0	57.4	30.6	22.4	25.3	12.9	12.0	4.1	6.9
年齢別	20歳未満	14	57.1	42.9	21.4	7.1	14.3	-	14.3	-	28.6
	20～29歳	91	47.3	39.6	23.1	4.4	13.2	4.4	17.6	2.2	15.4
	30～39歳	184	54.9	55.4	23.9	10.3	26.6	10.9	13.6	1.1	9.8
	40～49歳	244	63.9	58.2	29.1	20.1	31.6	6.6	15.2	3.7	8.6
	50～59歳	207	70.0	58.0	30.0	23.2	27.5	9.7	11.1	5.8	3.4
	60～69歳	333	78.1	61.3	34.2	34.8	26.1	14.7	9.0	5.1	3.0
	70～79歳	260	81.5	56.2	37.3	38.8	20.4	20.8	8.1	8.8	6.2
	80歳以上	96	70.8	54.2	42.7	32.3	16.7	31.3	8.3	10.4	5.2

〔居住地区別の結果〕

表9-7-2 家庭で行っている災害対策—居住地区別

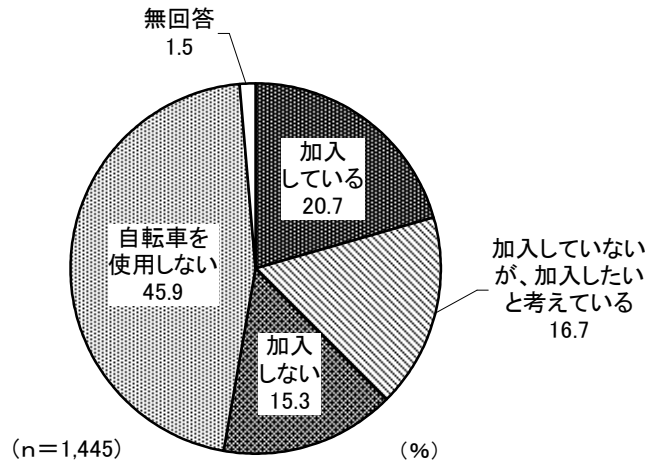
(%)

	n	災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている	災害時に備え、水や食糧などを備蓄している	地震による家具等の転倒防止策を実施している	自主防災隊等の防災訓練に参加している	災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている	隣近所の方と協力し合うようしている	ネットなどで防災に関する情報を収集している	パンフレットやインターネットに関する	防災に関する講演会や研修会等に参加している	無回答
全 体	1,445	69.5	56.3	31.8	26.0	24.6	13.6	11.3	5.3	6.6	
居 住 地 区 別	厚 木 北	154	65.6	63.0	29.9	14.3	22.1	4.5	13.6	2.6	7.1
	厚 木 南	90	72.2	53.3	28.9	16.7	23.3	6.7	5.6	6.7	3.3
	依 知 北	122	62.3	40.2	25.4	24.6	21.3	9.8	11.5	1.6	13.9
	依 知 南	57	68.4	50.9	28.1	29.8	22.8	15.8	10.5	3.5	8.8
	睦 合 北	58	67.2	53.4	29.3	29.3	25.9	20.7	10.3	10.3	6.9
	睦 合 南	119	73.1	52.1	32.8	21.8	28.6	7.6	14.3	5.9	4.2
	睦 合 西	46	76.1	67.4	30.4	34.8	17.4	17.4	8.7	4.3	6.5
	荻 野	54	70.4	68.5	35.2	31.5	27.8	7.4	16.7	3.7	1.9
	小 鮎	162	71.0	63.0	31.5	34.6	24.7	17.3	14.2	6.2	6.8
	南 毛 利	243	71.2	61.3	29.6	18.9	25.5	14.4	9.5	2.5	5.3
	南毛利南	100	72.0	57.0	37.0	28.0	29.0	15.0	17.0	9.0	7.0
	玉 川	96	70.8	54.2	36.5	43.8	30.2	26.0	5.2	11.5	4.2
	相 川	60	63.3	48.3	33.3	26.7	16.7	16.7	8.3	6.7	8.3
	緑ヶ丘	30	66.7	43.3	43.3	30.0	23.3	6.7	6.7	-	6.7
森の里	36	75.0	58.3	44.4	33.3	25.0	30.6	13.9	8.3	8.3	

(8) 自転車保険への加入 (B:問17)

問. 自転車に関する事故は、交通事故全体に対して高い割合を占めています。
 あなたは自転車事故を対象にした保険等に参加していますか。(1つだけ選んでください)

図9-8-1 自転車保険への加入



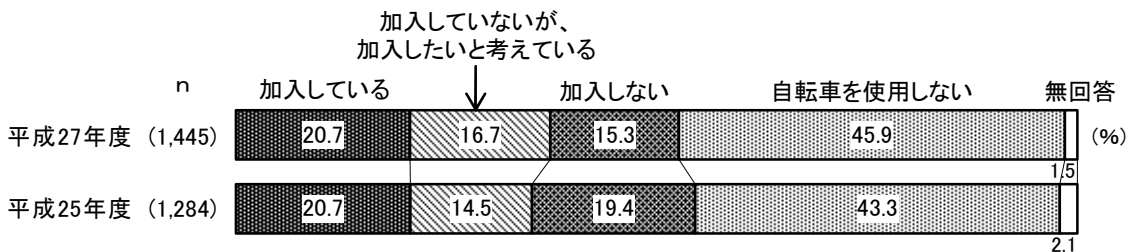
【全体】

自転車保険への加入状況について聞いたところ、「加入している」(20.7%)は約2割となっている。「加入していないが、加入したいと考えている」(16.7%)は2割近く、「加入しない」(15.3%)は1割半ばで、「自転車を使用しない」(45.9%)は4割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「加入しない」(15.3%)は前回調査(19.4%)より4.1ポイント減少している。

図9-8-2 自転車保険への加入一経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「加入していないが、加入したいと考えている」(20.1%)が女性(13.3%)より6.8ポイント、「加入している」(22.4%)が女性(19.4%)より3.0ポイント高くなっている。一方、女性では「自転車を使用しない」(51.3%)が男性(39.7%)より11.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「加入している」(31.6%)が3割を超えて高くなっている。20～29歳では「加入しない」(20.9%)が約2割と高くなっている。70～79歳では「自転車を使用しない」(56.5%)が6割近くと高くなっている。

図9-8-3 自転車保険への加入—性別、年齢別

